

明治150年記念 後世に伝えたい山口県ゆかりの人物等研究支援事業
審査委員会委員長三宅紹宣広島大学名誉教授による講評

本研究は、井上馨と伊藤博文の国家構想について、幕末から明治初期の期間を分析したものである。研究方法として、「マルチアーカイバル手法」を用い、新しい研究分野を開拓し、また、両者の段階をおって変化する国家構想について、その変遷を時代背景とかかわらせて丁寧に分析している。井上・伊藤の人物論研究は、これまで明治期が中心であったので、その源流を解明したことは、貴重な研究成果と評価できる。なお、伊藤の明治三年段階での将来的な国家体制構想の研究は、明治元年から一貫して廃藩置県による強力な国家体制の樹立を目指していたとも考えられることにも配慮しつつ、より精密な分析による深化を期待したい。